

上矢谷どうぶつ記 作品解説

「上矢谷」とは、僕が生まれてから今までくらしているまちのこと。幼少の頃に目の前に広がっていた畑や山は住宅地に、近くの川はコンクリートで囲まれて、カフ`トムシをとった裏山は公園になっている。風景は変わっていくが、よく見てみれば、場所の記憶・あったはずのものはそこかしこに見えてくる。今ある風景/昔あった風景、記憶、聞いた話(伝承)/想像上の風景/未来、都市部と田舎のあいだ、山と町のあいだ、人間とどうぶつのあいだ、現実にはありながら見えない「モノ」や「コト」など境界線を意識して作品にしている。ここでくらすどうぶつたちの生物相も変わってきた。外来種と呼ばれているものを含めれば以前より豊かになっているように感じる。そこには消えていったどうぶつもある。小さな郊外のまちから世界のリアルか`見えるか。2023年に制作した絵画、レリーフ、彫刻、ミニチュアジオラマなどを展示する。

1. Diorama“Park trash box”

ジオラマ「光射す公園」シリーズの最新作

「光射す公園」は、どこにでもある郊外の日本の出来事を「公園」という空間に凝縮し、ぬいぐるみのような動物フィギュアとそこにある「モノ」をミニチュアジオラマとして小さな世界を切り取った作品。公園とは人々のオアシス、自由な場所、僕も公園に救われた経験がある。しかしそれを規制するものもある。どちらが正しいかはわからないが、社会の縮図のように感じる。

ミニチュアについて

ゴミの主要な要素である商品パッケージは、実物を縮小印刷して作ることもできたが、あえて手描きにこだわることで自分の作品になると考えた。例えば小さいペットボトルの作り方もわからなかったのでヒートプレスなどの技法、素材の選択等を調べるところから初めた。実験しながらの試行錯誤で一つ一つ作るのにはかなり時間がかかった。商品パッケージはどんどんリニューアルして新しいものになって行くから、作った時点で過去のものを作っているという感覚もあった。ゴミ箱の中にあるものは周辺の公園等を調べてこだわった。

2. Days of wood carving ~This is the outside of my ATELIER 木彫をする。

向かって左の建物が現在のアトリエ棟、外で木彫を制作している様子を木彫レリーフで制作。もともと絵画作品を中心に制作していて10年ほど経ってから木彫を始めたので、レリーフは平面絵画と立体木彫のあいだを橋渡しができる表現だと考えている。

3. POKEMON Kids

小三の息子が実際に着ていた服と飼ってる猫を掛け合わせた小木彫。コーディネートから現代の郊外が見えてくる。

台座に使用している柱状の木材は、アトリエで材料の丸太や木彫作品制作時に使用しているもの。(作品2.Days of wood carving 画面内に木彫で表現されています。)

4. Signbord new town II

公園や路上では制限や禁止事項が多い、そしてそのことを看板で掲げる。普段は風景に溶け込んでいるけど、取り出してみると強い表現が多く見られる。周辺等を調べて実際にある看板のみで構成した。(“右も左も行き止まり”も本当にある)地域によってデザインが違い創意工夫が見られる。

5. GAME BOYS

switchやDSなど携帯ゲーム機を公園で集まってプレイする姿をよく見た。それぞれ違うゲームをしていることが少し不思議だったけど、最近はこんな風景もあまり見かけなくなった。どうやらオンラインゲームをそれぞれの家から参加して遊んでいるらしい。

※これら一連(作品3.4.5.)の作品を”Suburban Kids～郊外の子供たち”と呼んでいる。都会でもなく田舎でもないところである郊外。そこ住む子供たちと生活に根ざした違和感を意識して制作している。

6. Walk on the wildside 工業団地

これは「上矢谷」にある工業団地の風景。最近クマがよく山からまちに降りてくる(アーバンベアと呼ばれている)ことがニュースになっている。昔はまちと山との境目に里山があり緩衝帯になっていたけれど、今は里山がなくなってしまい山と都会が地続きになったからかもしれない。どうぶつたちが百鬼夜行の妖怪のように工業団地を歩き回っている。元々はこの場所も山だった。あらいぐま、チョウセンイタチ、こうもり、ハクビシン、ヤモリ、たぬきなど都会にもいるものたちが描かれている。画中には今までの自分の作品に登場したどうぶつキャラクターもいる。壁の落書きはちょうど制作中に起きた福島原発汚染水の海洋放出へのメッセージ。

7. FIGHT WAR NOT WARS, DESTROY POWER NOT PEOPLE (改)

イギリスパンクバンドのCRASSのTシャツを着ている。

リスペクトするものを着るのがバンドTシャツの基本でとても強いメッセージを身に纏っている。展示が背中向きなのはバックのメッセージを伝えるため。しかし、内容を知らないで着ているのかも。英語のロゴはただのデザインという感覚はある。switchの中のゲームで戦っているのかもわからない。

※CRASSは、イギリスの芸術集団パンク・ロックバンド。1977年から1984年にかけて活動した。政治思想、ライフスタイル、抵抗運動としてのアナキズムを実践した。日本語訳:戦争するな、戦争と戦え。人間ではなく権力を破壊しろ。

8. Fig Battle いちじく戦争

夏、庭に植えたイチシ `クの木に初めて果実が `たくさん実った。成熟するのを待っていると、カラスや小鳥たち、近年数を増やしているタイワンリスに盗られた。そこで `害獣対策(ぶら下がったCD)をしたか `、食へ `頃になるとハナムク `リ、カナフ `ンなど `虫たちが `やってきて、あれよという間に僕の食へ `る分はなくなった。木を植えたのは僕だけど庭や果実の所有権など関係ない。小さい場所で里山のようなどうぶつたちとの関わりを感じた。

9. Ponkichi ポンキチ

庭に現れるたぬきに「ポンキチ」と名前をつけた。彼の存在は防犯カメラに録画された映像から知った。

10. Good weather for mowing 草刈り日和

裏山を季節の分かれ目の適切な日に年4回程度、丸一日かけて機械を使って草刈りをする。2サイクルエンジンの軽やかな排気音は心地いい。草刈り行為は人間の勝手なことでどうぶつたちに

は関係ない。でも草と一緒に虫が飛び散るからムクドリは喜んで食べに近寄ってくる。カエルや蛇はうれしくは思ってなさそう。

11.~19.ドローイング

彫刻、絵画作品にする前に描いているもの。たいがいは描いた後しばらく寝かしておき何かを加えたり削ったりして作品にすることが多い。「Good weather for mowing」は作品化するのが早かったので、ドローイングと絵画が同じように見える。

20. Pigeon in the sky

窓から見える景色。毎朝、鳩が飛んでいる。工業団地内の印刷工場の屋上に鳩小屋がある。ベットタウンと呼ばれる新興住宅地。

以上。

石塚隆則